

# 科学技術に関するリスクコミュニケーション の実際と提案

## - 遺伝子組換え技術を事例として -

岸 靖之

キーワード：GMO、遺伝子組換え技術、リスクコミュニケーション、アンケート調査

### 1. 背景と目的

近年、遺伝子組換え技術を利用した遺伝子組換え体(以下、GMO)の開発や利用が進んでいる。農薬使用量を減らすことができる遺伝子組換え農作物および、医療技術に使用される遺伝子組換え微生物など様々なGMOが現代社会に関わっている。その一方、一般の人々は、GMOに関する情報をあまり知らないと同時に、GMOに対して否定的な傾向がある。そうしたなか、GMOが登場してからこれまで、GMOを推進する立場の専門家たちが一般の人々とリスクコミュニケーションを行ってきた。しかしながら、依然としてGMOに対して否定的な世論の声があり、日本国内での遺伝子組換え農作物の栽培は行われていない。そこで、一般の人々が懸念している不安を抽出し、現代社会におけるGMOの存在に対する一般の人々の理解について検証することを目的とした。また、既往研究で示されている、専門家が抱く一般の人々像と実際を比較検証することを目的とした。

### 2. 専門家の抱く一般の人々像と実際

情報提供とアンケート調査により、GMOを推進する立場にある専門家が抱く一般の人々像と実際は異なる点が多く含まれていることが検証された。また、アンケート調査から、一般の人々が不安に考えているのは、GMOの潜在的な危険性であり、技術的な必要性等には肯定的な意見を示していた。

### 3. 現代社会におけるGMOと一般の人々の理解

本研究の結果から、一般の人々にとってGMOに関する情報が不足していることが明らかとなった。また、人々は情報不足を認識していたし、自らの知識が少ないことも自覚していた。同時に、政府やマスメディアといった情報源のどれが正しいのかわからないという暗にこめられた不信の意見がみられた。その一方、もし一般の人々の手元にGMOに関する情報が届いたとしても、必ずしも目を通すわけではないことも明らかとなった。つまり、GMOに関するさまざまな情報を与えることがGMOに対する受容意識の向上に直結するわけではない。しかしながら、現代社会におけるGMOの存在を認識し、部分的にであっても理解が進むであろうことが示された。以上からアンケート調査に情報提供を加えた形式のリスクコミュニケーションにより、一般の人々に現代社会におけるGMOについて考える機会を提供できる可能性が示唆された。逆に、リスクコミュニケーションにおける情報提供は、肯定的なものと同懸念事項の両方を含めることによって、一般の人々の真の意見が示されることがわかった。